

不登校生徒の支援について

【渋谷区立 A 中学校の取組】

不登校生徒の状況

対象生徒は、令和3年度は20名だが、それには満たないが年間15日以上欠席がある生徒を加えると45名にのぼる。また、学校には登校できるが、教室に入ることができず、別室で学習している生徒も5名在籍している。主な要因として、学習の遅れや進路に対する不安、コミュニケーションが苦手であること、SNS等のトラブル等が挙げられる。

具体的な取組

○不登校が生じない魅力ある学校づくり
「hyper-QU」の結果から、「満足群」、「不満足群」の分布を分析し、居心地の良い学級集団の特徴を把握し、全体で情報共有を行うことで、生徒各々の様々な価値観を受容できる魅力ある学級づくりを行っている。

○SCとの連携
支援委員会では、特別支援教育担当教員だけでなく、SCや支援員にも参加いただき、カウンセリングの情報等も共有し、早期対応ができる体制にしている。



○支援会議の企画、運営等
支援会議は教育相談部会と兼ね、毎週火曜日3校時に実施し、不登校生徒や保護者の現状を確認し、有効な手だてについて情報共有する。確認した内容について、加配教員から企画委員会への報告、学年への周知を行い、全校で協力体制を構築することに努めている。

○不登校生徒の居場所づくり
教室復帰を目標に取り組む過程で、教室以外で気持ちの和らぐ環境を提供しています。加配教員が支援員の調整を行い、進路相談室を別室学習室として利用している。また、SCの来校日に優先的にカウンセリングの予約を入れ、心安らげる環境をコーディネートしている。

成果

支援会議においてスクールカウンセラーや支援員からの情報を共有し、学年・学校全体で情報交換が行われているため、予兆となるサインに対して、早期対応ができています。

課題

支援が必要な生徒に対して対応できる人の数が足りず、検討した対策を十分に実施することができないことが課題である。